

せんなんネットワーク

第125号

発行：みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部

会員活動紹介

音楽と同時に児童の心を育む つくしの会児童合唱団（大河原町）



令和2年11月に行われた定期演奏会

つくしの会児童合唱団は、設立から約52年の歴史ある団体です。子どもたちは4歳から入団することができます。高校2～3年時の定期演奏会を最後に卒団となります。現在団員は約50名在籍しており、大河原町だけでなく仙台市や蔵王町、村田町などからも通う団員がいます。会の入団条件はただ一つ、「お互いがお互いを大切にすること」で、入団に係るテストはないためその気持ちさえあれば入団することが可能です。

一方、新型コロナウイルス感染症の流行により、会も今までどおりの活動が困難となりました。現在はマスクを着用し、団員間で一定の距離を保ちながら練習を行い感染症対策に努めています。合唱中マスクを着用していると息が続かないなど様々な弊害が生じます。そこで、会の代表であり指導者でもある細淵誠一さんは、息が続くように肺活量を鍛えるための練習法を編み出すなど、団員が抱える問題を一つ一つ解決するだけでなく、合唱の技術向上につながるよう練習内容を工夫し、コロナ禍をチャンスと思えるようになりました。

細淵さんは、きれいな心や磨かれた心が技術を生んでくれると団員には指導しており、子どもたちは自発的にほかの団員や周囲の人に思いやりを持った行動が身についていくそうです。細淵さんも団員の子どもたちが健全に育つよう、練習中はたくさん褒めるよう意識しているそうで、指導者に必要なものは「忍耐」と「愛情」とのことでした。

つくしの会の合唱や活動の様子はQRコードからご覧いただけます。ぜひ素敵な歌声を聞いてみてはいかがでしょうか。



令和2年度みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部交流会を開催

令和2年12月3日に、柴田町まちづくり推進センター“ゆる。ぷら”を会場に開催し、仙南地域で活動する地域づくり団体や地域おこし協力隊の方々など計12名に御参加いただきました。

柴田町まちづくり推進センター“ゆる。ぷら”の取組紹介

第1部では、会場の“ゆる。ぷら”について、指定管理団体であるNPO法人余白の佐藤祥多代表理事から、施設の役割や団体の活動内容について御紹介いただきました。

当施設では地域や市民活動、その他まちづくりに関する情報の発信を行っており、団体の活動スペースやイベントの開催場所として利用されているほか、職員が活動に関する悩みを聞いて相談に応じたりしています。

また、佐藤代表理事は元柴田町地域おこし協力隊の隊員であり、そこで得た経験やつながりをもとに町内で様々な活動を行い、学校で授業も行っているとのことでした。参加した地域おこし協力隊の隊員方にとっても貴重なお話を伺うことができました。

[ゆる。ぷらのHPはこちら→](#)



講演「地域主体のまちづくり」

第2部では、講師としてNPO法人都市デザインワークスの榎原進代表理事から「地域主体のまちづくり」と題し、お話をいただきました。

当団体は、仙台市で主に都市づくり・地域づくり・都市デザインを行っており、中でも地域づくりについては「市民と進める地域づくり」として、地域が主体となって進めるまちづくりを、行政と連携しながら支援しています。



榎原代表理事による講演。当日は新型コロナウイルス感染症対策を徹底しての実施となりました

講演では、まちづくりを行う団体として、市民・地域、行政、事業者の間に立ち、それぞれをつなぐ役割としての活動について、過去の事例を交えながらお話をいただきました。

講演後には、参加者による情報交換会を行い、講演を聞いた感想や自分の活動する地域の現状や課題について話し合いました。参加者からは参加者からは「一人ひとりの話を楽しく聞くことができた」「他団体の考え方、地域のつくり方を聞いてよかった」などの声が聞かれました。

[都市デザインワークスのHPはこちら→](#)



白石市地域おこし協力隊 たけだよしひろ 竹田祐博隊員が任期満了を迎えます

白石市で地域おこし協力隊を務める竹田祐博さんが、令和3年3月をもって任期満了を迎えます。



オープン前のギャラリーにて、作品を手を持つ竹田さん

竹田さんは、地域おこし協力隊として「白石を元気にする」という理念を掲げ活動をしており、主に白石産ササニシキの販路づくりや、白石市の農産物を起点として人や仕事の輪を繋げるといった活動を行ってきました。白石市に移住したきっかけは仕事の傍ら始めた陶芸であり、蔵王町でアトリエを借りる際、近くで仕事を探していると白石市の地域おこし協力隊の募集に目にとまりました。竹田さん自身、協力隊に入る前は一切農業の経験がなく、活動内容を決めたときから自力で主に米作りについて勉強をすることで、ササニシキを使用した和菓子や日本酒といった商品開発にも取り組むことができたそうです。市の農林課の方の紹介で住民とのつながりを増やしていったそうですが、最初は農家の方から怒られるなど、つらい思いもしてきたそうです。しかし、活動を続けるうちにだんだんと地域の人々から認められ、頼られ始めたことで、協力隊として自信がついてきました。

また、白石高校の生徒とともに、おもしろい市場でササニシキを使った様々なイベントを行う「白高ササフェス」を開催し、開催に向けて高校生にアドバイスなどサポートを行ってきました。令和2年11月に第2回を実施したところ、高校生たちは第1回開催の経験を生かし、広報や運営など自ら進んで取り組み始めるなど、成長を実感できたそうです。本イベントは高校生に自信をつけさせ、将来白石に戻ってきてもらえるつながりづくりにもなるということで、今後も継続して関わっていきたいとのことでした。

竹田さんは、地域おこし協力隊卒業後も白石市を中心に活動をしていくとのこと。令和3年4月3日に白石城前の自宅で陶芸作品を展示するギャラリーをオープンするとのことですので、ぜひ、陶芸を通じて白石市の魅力やおすすめについて話を聞いてみてはいかがでしょうか。



竹田さんの作品は「そうじんがま蒼塵窯」という名前で、「蒼」を基調とした作品が多くギャラリーに展示されています
(写真の作品は水を入れると色が変化します)

蒼塵窯のHPはこちら→



助成金のお知らせ

地域づくり団体全国協議会に加入しており、一般財団法人地域活性化センターの賛助会員になられている場合、下記の助成金が利用できます（※注）。申請や相談は当事務局（みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部事務局）にお願いいたします。

■地域づくり団体活動支援事業助成金

地域づくり団体が行う自主的・主体的な地域づくりのために講師等を招聘して開催する研修会の事業や、内部体制等の強化のために、各分野の専門家を招聘して指導もしくは助言を受ける事業について、招聘する講師等に係る謝金及び旅費を各10万円、計15万円を限度に助成します。

■地域づくり団体クラウドファンディング活用支援事業助成金

地域づくり団体の活動資金調達を支援するため、クラウドファンディング活用に伴う費用の一部を助成します。助成対象事業は、自主的・主体的な地域づくりのためにクラウドファンディングを活用する事業とし、助成金の額は、目標金額の25%又は25万円のいずれか低い額を上限とします。

助成金の詳しい内容は[こちら](#)（全国地域づくり団体全国協議会HP）→



（※注）予算上限に達し次第募集は終了となりますので御注意ください。

活用をお考えの団体様につきましてはお早めに当事務局（みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部事務局）まで御相談ください。

事務局からのお知らせ

情報提供に御協力をお願いします

仙南支部では、地域づくりに関するイベントや参加者募集など、皆さまからいただいた情報を支部ホームページに随時掲載します。また、チラシ等も県大河原合同庁舎をはじめとする管内の公共・集客施設等に設置します。

PRしたい情報がありましたら、下記の宛先までお送りください。

皆さまからの情報提供をお待ちしています。

会員訪問を実施しています

仙南支部事務局では、会員の皆様の活動状況等についてお伺いするため、会員訪問を実施しています。事務局から連絡させていただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

本誌についての御意見や、当支部についての御意見・御要望等ありましたら、こちらまでお寄せください。（助成金についての申請・相談もこちらまで）

《みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部事務局》

宮城県大河原地方振興事務所 地方振興部 商工・振興第一班

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129-1

電話 0224-53-3199 FAX 0224-53-3076

e-mail oksinbk@pref.miyagi.lg.jp

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/oksgsin-e/tiikidukuriindex.html>



仙南郷土料理「おкусかけ」

次号は令和3年9月頃発行予定です